

多くの人との出会いに感謝し、地域を元気づけたい――

地域を元気づけようと、がん闘いながらも市内外で80回以上、タイルアート教室を開催してきた森下さん。多くの出会いに感謝しながら、その魅力を伝えていきます。

【もの作りで地域に笑顔を】

57歳で胃がんを患った森下さんは、息子がタイル工事の仕事を引き継いだことで、現役を引退。そこで、がん治療中に生きた証を残してみようと考えたそうです。

「生死が危ぶまれる闘病生活中に、何か形に残したいという思いを持つようになりました。そこで始めたのが、アートクラフトタイルを用いた作品作り。仕事で培った技能を生かし、これまで公民館や学校などで、子どもから大人までさまざまな人に、タイルアートの楽しさを伝えてきました。しかし、79歳の時に2度目のがんが発症。以前



のように活動することは難しくなりましたが、地域を元気にしたいという思いは、今も変わっていません」

【学び場もコーディネート】 アートとしてのタイル加工

2.5mmのタイルを、ニッパーで形を整えてから、裏側にボンドを付けて貼り、作品を完成させます。例えば花は、形や色がそれぞれ違いますよね。それらをアートに落とし込む中で、自分がどのように表現



タイルアートの楽しさを伝える

もりしたすすむ
森下進さん(道悦)

を、独学で学んだ森下さん。教室では、会場の雰囲気作りにも力を入れます。
「アートクラフトタイルは、絵やモザイクなど芸術作品の制作に用いる画材の一つです。色ごとに用意した厚さ

したいのかを考えてみるのも面白いと思います。教室では作品を、自らの手で作り上げる楽しみや苦勞を体験してほしいですね。その際、生徒の皆さんが創作に集中できるように、安らぐ音楽を流すなどし

て、雰囲気作りにも心掛けています」

【感謝の思いをアートに】

地域とのつながりに感謝し、現在も制作に取り組んでいると話す森下さん。今は、毎年1回の精密検査を受け活動しています。

「これまで多くの人から、たくさん刺激をもらってきました。中でも鮮明に覚えているのが、昭和62年3月に完成したトートেমポール（道悦四丁目）を立てる台座のタイルアートを、六合幼稚園の子どもたちと作ったこと。楽しそうに取り組む園児の笑顔が、とても印象に残っています。最近では、地元のごみ集積所に家族愛などをテーマとした作品を飾っています。ごみ捨てや散歩で通りかかる際に、眺めて楽しんでもらえればうれしいですね。これからも地域とのつながりを大切に、活動が続けていきたいです」
人と接する喜びを胸に、生き生きとした作品を作り続ける森下さん。これからも多くの人に、タイルアートの魅力を伝えていきます。



子どもたちにタイルアートを教える森下さん(中央)

Shimadajin File #111

島田
Story 人